



—東地中海地域ニュース—

シリア：イラクとの関係に関する外務省ブリーフ

(9月3日付シリア国営通信社)

9月2日、シリア外務省は、当地外交団に今般のシリア・イラク問題におけるシリアの立場に関し以下のブリーフを行った。

1. シリアは、バグダッドでのイラク財務省・外務省を襲い、多くのイラク国民の命を奪った爆破テロを早くから非難した国である。又、シリアは、イラク国民の生命及びイラクの安全と安定に真剣であると繰り返し強調している（注：8月19日にバグダッドで発生し、約100人が死亡したテロ事件。イラク側は犯人が在シリアの旧イラク・バアス党员とシリアを非難。本事件により、両国は大使引き揚げを実施）。
2. この爆破テロがシリアにとって何の利益があろうか。このテロは、シリアがバグダッドに大使館を開き、大使を交換し、高官が相互訪問し、数日前には包括的な戦略的協力評議会の設置を発表した国のまさに最前線で起こったテロである。
3. ムアッリム外相は、イラク外相に対し、シリア・イラク関係への熱意を伝え、爆破テロの背後にいる人物に関する真の証拠と文書を携えたイラク治安代表団を組織するよう求めた。イラク側の主張が正しいと確認できれば、シリアは協力して適切な措置を取る用意がある。
4. ムアッリム外相はまた、衛星放送を通じた報道で証拠を捏造し、大使を召還するという手段は、シリア・イラク関係を妨害する政治決定がイラク側にあることを確信させるものであり、その場合にはシリアとして適切な対応を取らざるを得ないことをイラク外相に伝えた。
5. 今は、今回の爆破テロ事件とその背後にいる人物に焦点を絞らなければならない。なぜならば、マーリキー政府は、本事件を、イラク政治プロセスへの参加が禁じられておりシリアに避難しているイラク人反体制派の受け渡し要求に結び付けようとしているからである。

6. シリアは、関係悪化を防ごうとするイラン及びトルコの役割を歓迎する。両国の外相がシリア・イラク間の危機を抑える努力としてバグダッドとダマスカスを訪問した。イラクが彼らの主張を裏付ける証拠を提出することなく嫌疑をかけ、それゆえシリアは証拠の提出を要求し、テロの背後にいる人物について真実を調査しようとしている。
7. イラク政府高官が、イラク側の持つテロの証拠をトルコ外相経由でシリアに提供したと述べたが、真実ではない。提供されたのは、最近のテロに関するものではなく、過去にシリア・イラク間で協議された事項に関するものである。
8. シリアに対するマーリキー政府の不正な態度はあるものの、シリアはイラクの土地と国民の統一性を守り、イラクの主権、安全、安定を保持するための取り組みを続け、イラク国民とのより良好な関係構築を望む。